

特区事業者 「やぶの花」

リンドウ苗を定植

八鹿但馬農高生を招待

国家戦略特区の養父市で、花卉の生産を始めた特区事業者「やぶの花」が2日、同市八鹿町朝倉の畑で、リンドウの苗を植えた。近

い、特区事業の現場を体験した。

同社は同市大屋町和田の生花業高木規之さん(53)と姫路市の「姫路生花卸売市場」の柴

の規制緩和を利用して2月に設立。4月から同町和田で小菊を栽培している。

山栄一社長(46)、石原洋輔常務(57)らが特区生13人が作業を手伝

地元住民と協力して整備した養父市八鹿町朝倉の畑10アールでは、青や白のリンドウを約6400本植える。この日は若い人に生花栽培に興味を持ってもらおうと、同校生徒たちを定植作業に招待。生徒

たちは、柔らかい茎を折らないようにピンセットを使って苗を扱う方法を高木さんに教わり、一本ずつ丁寧に植えていった。花は来年夏に収穫する。

同校の太平孝明君(17)は「同市大屋町若杉」は「特区のことは耳にするが、実際に作業に携わる機会は貴重。

花の栽培が養父市全体に広がる」と話していた。(那谷享平)

但馬農業高校の生徒たちに苗の植え方を教える高木規之さん(左)と養父市八鹿町朝倉

